

甲府市自殺対策推進協議会令和5年度第1回会議 議事録

1 会議日程

日時 令和5年7月19日(水) 午後2時～

場所 甲府市役所南庁舎1号館3階 男女共同参画センター会議室

2 出席者

・委員(名簿順)

山角 駿 坂井 郁恵 大内 誌(代理) 小石川 好美 浅川 秋仁

野澤 初美 小野 克哉 青柳 英子 三森 千春 小林 浩

小沢 里枝 座間 渉 大野 淑恵

(欠席:山中 達也 南部 裕美 丸山 弘 内田 静子 寺田 幸子)

・事務局

精神保健課 課長 土橋 誠

精神保健課 課長補佐 秋山 宏之

精神保健課 係長 飯島 愛子

精神保健課 松橋 淳

・業務受託業者

特定非営利活動法人 SCOP (スコップ) 末永 龍介

3 会議次第

1 開会

2 委員紹介

3 職員紹介

4 会長あいさつ

5 議題

(1) 第2次甲府市自殺対策推進計画策定の趣旨について

(2) 甲府市の自殺に関する実態について

(3) 住民意識調査(アンケート調査の実施について)

(4) 今後のスケジュールについて

6 その他

5 議事の要旨

議題（1） 第2次甲府市自殺対策推進計画策定の趣旨について

事務局

（第2次甲府市自殺対策推進計画策定の趣旨について説明）

議長

事務局から説明がありましたが、これについて何かご質問あるいはご意見等はございますでしょうか。

（質問・意見等は特になし）

議題（2） 甲府市の自殺に関する実態について

事務局

（甲府市の自殺に関する実態について説明）

議長

事務局から説明がありましたが、これについて何かご質問あるいはご意見等はございますでしょうか。

A 委員

甲府市が県や国より自殺率が高いのは居住地ベースでしょうか。それとも発見地ベースでしょうか。

事務局

居住地ベースで、比較をさせていただいています。山梨県の場合、自殺の名所のようなところがございますので、そういったところでは発見地ベースで、比較することがありますが、甲府市は住所地で比較させていただいています。

議長

コロナの影響がどのように出てくるのかはまだわかりませんが、今後社会的に検証されていくと思います。山梨県は全国平均と比較して自殺率が突出しているわけではありませんが、若者の自殺が増加していることや若者の死因の第一位が自殺であるということは心配といえます。最近も有名なタレントの自殺がありましたけれども、若者はそういった影響を受けやすいので、その辺りも課題かなと思います。

議題（3） 住民意識調査の実施について

事務局

（住民意識調査の実施について説明）

議長

事務局から説明がありましたが、これについて何かご質問あるいはご意見等はございますでしょうか。

F 委員

14番の設問、「3年以内に本気で自殺を考えたことがあるか」について。国の調査では「あなたは本気で自殺を考えたことがありますか」という質問をしてから、いつの時期から自殺を考えたことがあるのかを聞いているが、なぜ最初から「3年以内に」という言葉を追加しているのでしょうか。前回の調査では、「人生の中で」というのが広い範囲になってしまったので、期間を設けたのはわかりますが、3年という期間が突然出てくることに違和感があります。3年というのは、コロナ禍のことも含めて最近の情勢が影響しているかを知るためなののでしょうか。

事務局

おっしゃるように突然3年という期間が出てくるのは唐突だと思いました。甲府市として今後の自殺対策を考えるにあたって、どのくらいの期間の中で自殺を考えたことがあるのかを確認するのが効果的なのかについて委員の皆さまにもご意見をいただけるとありがたいなと思っております。

議長

このまま協議に入りたいと思います。調査票の内容に限らず、その他のことについても構いませんので、委員の方に一言ずつ意見を伺いたいと思います。

A 委員

14番の設問について、3年以内ではないけどもう少し前に自殺したいと思ったことがあったとか、死にたいとずっと考えているとか、そういった人を把握できなくなってしまう。まずは自殺を考えたことがあるかを聞いた後に、いつ頃そう思っていたのかを聞く方法が良いと思います。

B 委員

14番の設問について、期間は最近の情勢ということなら3年で良いと思います。労働関係の仕事をしているので、調査票については、どういう業種で勤めているのか、あるいは答えたくなければ答えなくて良いという選択肢を残したうえで、世帯年収を確認して傾向が見られると良いのかなと思いました。

C 委員

14番の設問については、まず自殺をしたいと思ったことがあるのかを聞いてから期間を聞いた方が良いと思います。

D 委員

私も前の方と同じようにまず自殺したいと思ったことがあるのかを聞いたほうが良いのかなと思います。自殺と言っても精神科に通院していても亡くなってしまう方もいれば、強いストレスを感じて衝動的に亡くなってしまう方もいる。前回の調査では「人生の中で」という非常に長い期間だったので、長くても3年以内に死にたい気持ちがあったのかを確認するのが良いと思いました。

E 委員

14番の設問について、期間については3年以内、2年以内、1年以内と選択できると良いのかなと思いました。

F 委員

14番の設問について、「何年以内に」という期間は1年以内だと、比較的近い時期なので、アンケートを回答することで、辛かったことを思い出したとしても、近くに関わってくれている方がいる可能性が高いですが、3年近く前となると、もう大丈夫になったつもりだったのに、当時の辛いことを思い出してしまうということが少し怖いと感じました。アンケート自体は答えたい意志があったとしても、答えたくない設問もあるかもしれないので、答えたくない設問は答えなくても良いという選択肢があることで、回答率が上がるのではないかと思います。

G 委員

14番の設問について、本気で自殺を考えたことがあるかを聞いてから、年数は選択できると良いと思いました。

H 委員

前回、平成30年に調査を行ったということで、それから甲府市がどんな取り組みを

してきたのかを詳しく知りたいと思いました。それから、今回調査をすることで、このアンケートをもとに、どういう施策をしていくかが大事だと思います。学校の立場からすると、SOS の出し方教育が指導重点のひとつになっています。甲府市の事業についても今日知ることができたので、現場にも活動を周知してもらえるとありがたいなと思います。

I 委員

14 番の設問について、私も自殺を考えたことがあるのか聞いてから、その後に詳細をアンケート形式で聞いていくのが良いのかなと思いました。また「本気で自殺したいと考えた」という「本気で」という部分をどのように捉えるのが難しいと感じました。本気という言葉を入れるべきなのかというところは気になりました。

J 委員

設問 6 番、7 番の中に、「悩みや苦勞、ストレス、不満」と書いてあるがもう少しシンプルで良いのではないかと思います。設問 14 番は「本気で」と「自殺したいと思ったか」というように、質問が二つ入っているので、回答者にとって答えづらいのではないかと感じます。聞きたいことをもう少しシンプルに質問項目とした方が良いのではないのでしょうか。

K 委員

「自殺を考えたことがありますか」という聞き方よりも、「死にたいと思ったことがありますか」、「自分を傷つけたいと思ったことがありますか」という聞き方が答えやすいのかなと感じました。死にたいと思ったことがある人に、後の質問項目で詳しく理由を聞くことになっていますが、現在悩みはありますかなどの質問をして、「死にたいと思っている人」だけでなく、「悩みを抱えている人」を対象にすることで傾向がより見えるようになるのではないかと思います。私は保健所職員ですが、SOS の出し方教育は、中北保健所で独自にやっけていまして、去年も何校かで実施をしています。子どもたちに相談するとか、困ったときに大人に話すことが必要ということを伝えていくところは、甲府市とも一緒にやっていきたいと思いました。

L 委員

設問を作る時に何を求めるのか、期間については何が見たいのかによって変わると思います。前回の調査との比較をするのであれば、前回は「3 年以内に」とは入れていないので、まずは「自殺したいと思ったことがあるか」を聞くのが良いと思います。自殺はずっと思い続けている人や何かあるたびに死にたくなる人へのアプローチが必要だと思います。死にたい気持ちが一度きりなのか、継続しているのかも把握する必要があります。

と思います。

議長

その他に他の委員の話も踏まえて確認したいことはありますか。

L 委員

設問4について、大学生で実家で生活している場合に何番の選択肢を選ぶのか、選ぶのに迷ってしまうと思いました。

事務局

確かに選択肢を見ると、どれにしていいいか迷ってしまう部分があると思います。先ほどの大学生の実家暮らしになると、6のその他になるかと思いますが、もう少しわかりやすい選択肢になるように検討したいと思います。

F 委員

設問の17について、「あなたは普段情報収集に何を利用しているか」を聞いていますが、国の調査では何にどのくらいという部分をもう少し細かく説明している。若い方だとインターネットって言葉自体がもう古いと感じる場合もあるので、情報を取る側として、質問内容が少し曖昧なのかなと感じます。また、どれだけの時間使っていたのかというような頻度や時間を調査することも必要だと思います。例えば、大学生や高校生は、インターネットをかなりの時間使っている可能性があります。それが自殺傾向とつながるかもしれません。なので、使う頻度や時間も選択肢に入れたほうが有効な調査になるのではないかと思います。

事務局

ご意見をいただきまして、媒体の選択肢が少ないのかなということと、表現が少し古いかなという部分もありますので、再度見直したいと思います。使用頻度を選択肢に加えることについても、他の事例等も確認しながら検討させていただきたいと思います。

議長

他にございませんでしょうか。貴重なご意見をいただきありがとうございました。もう一度、事務局で今回の意見を踏まえて内容を検討していただき、最終的には事務局にお任せするというところでよろしいでしょうか。

(質問や意見等は特になし)

議題（４） 今後のスケジュールについて

事務局

住民意識調査につきましては、10月に調査結果報告書をまとめまして、11月に開催予定の第2回自殺対策推進協議会において、資料として提出をさせていただきます。また本日、住民意識調査についてご意見等いただきました内容につきましては、事務局にて検証を行いまして、必要に応じて調査内容に反映をさせていただきます。

計画の素案につきましては、8月から12月にかけて検討を行いまして、11月の第2回自殺対策推進協議会において、提出をさせていただきます。

なお、1月に市民の皆様から計画の素案に対する意見を募るパブリックコメントを行いまして、2月の第3回自殺対策推進協議会を経て、3月に計画を策定する予定となっております。

議長

事務局から説明がありましたが、これについて何かご質問あるいはご意見等はございますでしょうか。

（質問・意見等は特になし）

以 上